

# 日中共同国際ワークショップ

## 「中国旱作農業の歴史に学ぶ：黄土高原を中心に」

降水量の不足が問題となる世界の農業地域では、灌漑が農業近代化の大前提とされてきた。しかし、農業的水利用が及ぼす環境負荷や近代化における地域格差といった諸問題を緩和するためには、灌漑農業と天水農業を適切な形で組み合わせていくことが不可欠である。このような認識をふまえつつ、本ワークショップでは、中国の黄土高原に焦点をあてる。この地域は乾燥条件のもとでの天水農業—中国でいうところの「旱作」—が世界史的に見て最も長期間にわたって続けられてきた地域の一つであり、『齊民要術』に代表される体系的農書が古くから成立した地域でもある。中国の伝統的旱作は、砂漠化・緑化や稲作の問題に比して、日中共同で検討の対象とされることが少なかった。本ワークショップでは、中国旱作技術のもつ歴史的意義を再確認するとともに、その現代的意義についても幅広い角度から検討したい。

主催：総合地球環境学研究所 中国環境問題研究拠点（日本）

共催：榆林学院生命科学院（中華人民共和国）

期日：平成 27 年 8 月 20 日（木）・21 日（金）

会場：総合地球環境学研究所講演室（京都市北区上賀茂本山 457-4）

問い合わせ：rihn-china<@>chikyu.ac.jp、蔣まで

## プログラム

8月20日(木) 第1日：黄土高原の開発史と環境問題を考える

- 14:00～14:10 開会のことば  
安成 哲三 (総合地球環境学研究所所長)
- 14:10～14:20 趣旨・プログラム説明  
三浦励一 (龍谷大学准教授・総合地球環境学研究所共同研究員)
- 14:20～15:20 陝西省の風土と環境問題  
北川秀樹 (龍谷大学教授・中国環境問題研究拠点メンバー)
- 15:30～16:30 「古代関中－黄土高原の劣化環境に回復期はあったか？」  
原宗子 (流通経済大学教授)
- 16:40～17:10 実験考古学からみた中国新石器文化の「石犁」  
小柳美樹 (金沢大学客員准教授)
- 17:30～ 交流会

8月21日(金) 第2日：黄土高原の在来農業技術を考える

- 9:30～10:30 横山县传统粟作栽培法与《齐民要术》文献对读  
樊志民 (西北農林科技大学教授)
- 10:40～11:40 黄土とアワの特性：黄土高原における観察から  
三浦励一 (龍谷大学准教授・総合地球環境学研究所共同研究員)
- 11:40～12:30 昼食休憩
- 12:30～13:30 日本における中国農書受容の諸問題  
渡部武 (東海大学名誉教授)
- 13:40～14:40 全体を通しての質疑応答とパネル討論  
司会：田中 樹 (総合地球環境学研究所研究部准教授)  
パネリスト：(五十音順)  
原 宗子 (流通経済大学教授)  
樊 志民 (西北農林科技大学教授)  
三浦励一 (龍谷大学農学部准教授・総合地球環境学研究所共同研究員)  
渡部 武 (東海大学名誉教授)
- 14:40～15:00 閉会のことば  
窪田順平 (総合地球環境学研究所教授)